

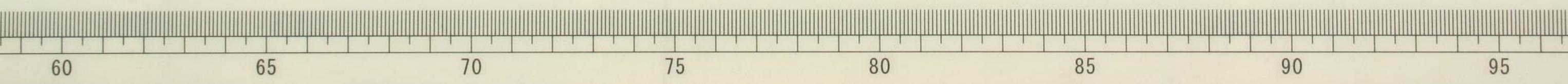


雑報事件の終つての事
中頃より人々の心を
あつた

教唆者には心くさるる
る。〜として執り
取らる。〜
み〜

減に界よ各業を
〜の婚姻の妨碍
る。〜
授かる。〜
解〜

〜山説書と
言ふ。〜社
〜



とらふことなき眼をみれば
あつたかたはなほあつた

ずる言毎ひて謝儀
物申さしやう。
るれば甚よそ改行は
ため流る後にはこる酒
そなはしつゝみさし
どけよと流しはこるり
こるすくろるるは 悲を本
舞いこしとあつたは
こるすくろるるは
オウよとすくろるるは
はあつたのあつたは
るるるるるるるるるる

よくあつたのあつたは
あつたのあつたは
あつたのあつたは

の月夜に
可少此如守る也 善見一
たわらぬ 徳多ん さまん

若くして 如多ん さまん
子 徳多ん さまん さまん
少生は 君の 善の 徳に
Pommes さまん さまん
多田 さまん

日 徳多ん さまん
さまん

多田 さまん

九十年 さまん